

ルワンダで義肢作り

NGO招き交流会

野柳小
長三本



ディアネさん(左端)と一緒にマンダジを作る児童

国際交流を積極的に進めている長野市立三本柳小学校(小林康一校長)は29日、ルワンダで義肢作りをしているNGO「ムリンディ・ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」(神奈川県神奈川

県茅ヶ崎市)の会員らと交流会を開いた。

真美さんは97年、夫でルワンダ人のガテラさんとともにルワンダに義肢製作所を設立。内戦で手足を失った障害者に義肢を無償で提供するなどの支援活動を行っている。同小は長野五輪での「校一国運動」を機に地雷被害

国との交流を行っており、真美さんとは04年に滋賀県で行われた「地雷をなくそう!世界ごもサミット」で知り合い、毎年、同校が招いている。歓迎会では、同小の児童が真美さんらに、街頭で集めた募金5万7029円と千羽鶴などを贈った。学習会では、ルワンダの自然や

文化をDVDなどを使って説明。真美さんが内戦で手足を失った障害者の写真を見せながら解説した。また、ルワンダの揚げパン「マンダジ」作りは5年生が挑戦。児童らはディアネさんと一緒に生地をこね、熱々に揚がったマンダジを味わった。

同小5年の岡澤妙子さん(11)は「ルワンダを身近に感じることができた。義肢作りは人を助ける仕事。私も覗きたい」と話していた。【大平明日香】

2008年3月1日毎日新聞長野版掲載
この記事は、毎日新聞社の許可を頂き、掲載しています。

※無断転記はお断りします。

ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト